

学校における、トラウマとなる（外傷的な）事件のマネージメント支援

文部省は、学生やスタッフの自殺を含む、トラウマとなる（外傷的な）出来事が生じた学校を援助する特異的なサービスを開発してきた。このサービスは二つの構成要素から成る。

1. トラウマとなる（外傷的な）事件に対する事前計画：このサービスでは、学校における、トラウマとなる事件に対応する機能的な適切なチームや計画の作成を支援する。
2. トラウマとなる事件に対応するチームサービス：このサービスは、トラウマとなる出来事の後、学校に対して援助と支援を提供する。日常業務の維持に対する支援、支援を必要とする人に対する迅速な支援の提供、この事件についての子供達や青少年、地域社会とのコミュニケーションの取り方についての助言、支援や自助的な戦略の促進、危険性の高い人々の同定および専門的ケアの評価、そして文化的に適切なネットワークとサービスの連携促進が、このサービスに含まれる。

このようなトラウマとなる事件のマネージメント支援は、文化的に対応するトラウマ事件サービスを含む。Tikanga Maori（訳者注：マオリ族の慣習上の価値観や行為）の視点からのトラウマ事件対応は 'Aue...He Aitua'（訳者注：ああ・・・事故が）として言及される。これは te reo Maori（訳者注：マオリ語）が主要な言語であり、tikanga Maori（訳者注：マオリ文化）が一般的なセッティングではよく実践されるだろう。

メディアによる自殺報道

メディアによる自殺の報道や描写を安全にするための活動は自殺の伝播を抑制するために重要な構成要素である。この問題は目標5で述べた。

自殺や自殺企図により影響を受けたマオリ族 /tangata whenua（訳者注：この地の人々）の事後対応（ポストベンション）支援

マオリ族の自殺や自殺企図の率は高く、whanau（拡大家族）、hapu（訳者注：マオリ族の、一族）、iwi（訳者注：マオリ族の、地域社会の人々）やマオリ族地域社会への破壊的な影響がある。マオリ族に対する更なるインパクトは、wakapapa（家系）への個人の特有の貢献が失われるという圧倒的な感覚を含む、彼らの文化の身体的およびスピリチュアルな特性に関する根幹となる信念と関連するだろう。

一般的に、自殺は約6人に直接的に影響すると示唆されてきた (McIntosh 1993)。マオリ族の whanau（拡大家族）という構造と概念を考慮すると、マオリ族社会では影響は更に広いものであろう。Whanau はほとんどの場合自殺や自殺企図の後の支援を提供するが、必ずいつもというわけではないことを認識しておくことは重要である。そのため、状況とは関係なく、サービスは個人や whanau に対して対応しており、支持的であり続ける必要がある。

太平洋系の人々の課題

拡大家族はほとんどの太平洋系の人々の社会の基本の単位で、ニュージーランドの太平洋系の人々のほとんどの自己同一性には必須のものである。太平洋系の人々の文化の集合的な特性は、多くの太平洋系の人々（ニュージーランド生まれも、時刻の諸島生まれも両方）が自殺や自殺企図に影響を受けやすいことを意味している。同様に、家族や教会のような地域社会構造が、自殺による死別後の太平洋系の人々にとって主な支援のよりどころとなっているだろう。

悲嘆や、死別、および自殺行動と関連する意味は、文化によって異なる。ある太平洋系の人々の地域社会では、自殺について議論することはタブーであり、自殺は恥、罪悪感、偏見、故人に対する適切な世話や支援に失敗したという感覚と関連している。

自殺の後の太平洋系の人々の家族が要求することに、どのように最良の支援や対応をするかについて、注意深い考察が必要である。自殺後の太平洋系の人々の家族に対する支援は太平洋系の人々の中で働く従事者とその過程に参画させ、Fonofale（訳者注：サモア諸島の保健についての概念に基づくモデルで、fonofale

と呼ばれるサモア族の伝統的な集会場に由来する。家族を社会の重要な構成要素とする文化的な価値観や信念を背景として、伝統的な癒しの手法と西洋的な手法を合わせた物が根底にある)のような全体的な太平洋の保健モデルを考慮することが重要である。家族に対する支援は家族構成員一人ひとりに対してではなく全体としての家族に提供されるべきである (Henare and Ehrhardt 2004)。更に、サービス提供者は、死別や支援と関連する文化的、スピリチュアルな慣例、各太平洋系の人々の集団ごとに異なる自殺にまつわる文化的な儀式を理解しようとするべきである。

活動の鍵となる領域

自殺により死別を経験した人々や、自殺企図により影響を受ける人々、群発自殺の発生に対応する必要がある地域社会組織へのサービス

- 6.1 包括的な事後対応 (ポストベンション) 支援活動の開発を継続する。この作業には以下が含まれる:
- 自殺死別に対する効果的なサービスを開発する
 - 自殺で死別した人々が利用可能な特異的な地域のサービスを同定しモニターし、持ち上がってきた要求に対応する — これは、マオリ族や太平洋系の人々のような特異的な集団に対するサービスへの考慮を含む
 - 群発自殺の発生を同定しそれに対応するためのサービスを開発する
 - 自殺という出来事への対応が地域社会で確実に準備されるように、協調したマネジメント計画を提供する
 - 身近な人が自殺企図をした場合に影響を受ける人々に対して、適切に支援を行うためのサービスを開発する

これらの全てのサービスはマオリ族にとって文化的に適切で効果的であるように、開発され、評価されなければならない

- 6.2 文部省トラウマ事件対応サービス (Traumatic Incidents Response Service) の精査に基づく勧告を実践する。特に、以下がそのステップとなる:
- 国として一貫し、エビデンスに基づくサービスを提供する — このサービスの一部として、年齢や文化的に適切な資源を活用し、改訂する。学校や幼少期サービスにおける支援マニュアルや事前計画ワークショップを含む
 - このサービスの部門を知らせるためのコミュニケーション戦略を開発する
 - 学校や幼少期サービスに、その事前計画訓練パッケージを継続して広める
 - トラウマ事件スタッフに対する訓練を継続する

自殺遺族の人々や、自殺企図により影響を受けた人々、遺族や影響を受けた人に対応する人々、および鍵となる組織に対する資源

- 6.3 確立した自殺支援グループに対する最良の実践ガイドラインを開発、実践、評価する。
- 6.4 自殺や自殺企図後のマネジメントについての既存の情報資源、ガイドラインおよびプロトコールを以下について精査する。
- 死別した人々
 - 死別した人々に対して定期的に接触する鍵となる人
 - 自殺企図により影響を受けた人々
 - 鍵となる組織セッティング

全ての資源、ガイドラインおよびプロトコールはマオリ族に対しても文化的に適切で効果があるか否かについて評価されなければならない。

目標 7：自殺率、原因および効果的な介入法についてのエビデンスを発展させる

はじめに

この目標が目的とすることは、自殺に関するデータの質を向上させ、時宜にかなったデータとすること；自殺行動の率や、寄与因子、効果的な介入についての現在の知識を拡張させること、自殺予防についての調査や情報の普及を増進させることである。

論理的根拠

正確で時宜にかなった統計情報や調査は自殺予防戦略の重要な基礎を提供する (Institute of Medicine 2002)。この領域の関連する作業として以下が挙げられる：

- 自殺行動に関する集団の傾向をモニターする (例えば、年齢や民族の傾向)
- 自殺行動の広がり、特性、分布についての記述的な情報を提供する
- 自殺行動に関連した脆弱性や resilience (訳者注：抵抗性、順応性、ストレスからの回復力やストレスを跳ね返す弾力、といった意味) に寄与する個人、家族、社会、経済、文化的要因の複合的な混合についての理解を増す
- 関連団体集団 (例えば、大衆、メディア、自殺遺族など) の態度や視点についての理解を増す
- エビデンスに基づく自殺予防戦略や政策、活動の評価を実施する
- 総計的および調査からの情報を普及させる

ニュージーランド自殺予防戦略 2006–2016 (New Zealand Suicide Prevention Strategy 2006_2016) (Associate Minister of Health 2006) はこの領域についての国際的に増えつつあるエビデンスの上に構築される必要があるが、ニュージーランドの自殺行動に特有の特徴に対応する地域的な調査を実施することも重要である。この章の後で考察するように、マオリ族の自殺に関連する課題は優先順位が高い領域である。

考察のための鍵となる領域

この目標が掲げる目的を達成するための 3 つのアプローチは：

1. 自殺に関するデータの質を改善し、時宜にかなったデータとする
2. 調査を拡大する
3. 調査や情報の普及を増進させる

自殺に関するデータの質を改善し、時宜にかなったデータとする

ニュージーランドには、毎年の自殺死亡や自傷による入院についてのデータを含む保健データを照合するための洗練されたシステムがある。自殺のデータを照合することに関する鍵となる課題は、自殺のデータの適時性と質である。

自殺死亡データ

検死により死亡が自殺として分類される。ある場合には、検死官による調査が完了するのに数年を要し、自殺統計の最終承認が遅れる。このような遅延はモニタリングや調査結果に影響を与える。

自殺死亡データに関する更なる課題は、システムとして入手可能な形式で収集される詳細なデータの量にある。この詳細なデータとして、人口動態的背景に関する詳細や、使用された手段や精神障害診断の有無のような、その他の関連する可能性のある情報を含む、死亡に関連した特徴が網羅されている。そのような情報が一貫して収集され、信頼できるものであり、政策や調査のための情報として利用可能であることが重要である。

自傷による（自殺企図による）入院についてのデータ

自殺企図の代理の測定手法として、意図的な自傷による入院がニュージーランドでは使用されている。国のデータは、地域保健評議会（DHBs）により、地域ごとに収集され、コード化されており、保健省ニュージーランド保健情報サービス（NZHIS, New Zealand Health Information Service）に集められる。入院を要しない自傷は国の統計には含まれない。入院のデータは全ての自殺企図を補足してはいないが、ニュージーランドの自殺企図の傾向やパターンの良い指標と考えられている。データ品質の問題として、自傷による入院記録の地域ごとのばらつきが挙げられる。例えば、地域保健評議会レベルでコード化の差を最小限にとどめることで、国のデータの一貫性を改善する余地があることが、このばらつきから示される。

自殺予防活動の標的に関する情報となり得る、民族、職業、および関連するデータの収集に関しても改善可能であった。マオリ族の自殺問題の大きさを理解し、優先順位の高いマオリ族調査の領域に関する情報を得るため、およびマオリ族地域社会の自殺予防介入を検討し評価するために民族に関するデータの分類や収集の改善が必須である。

自傷の広がりをもっと明確に理解するための一つの方法として、英国の例のように、自殺や自傷に関するデータを収集する専門のサイトを確立する方法がある（Hawton et al 2006）。これらのサイトにより、病院の完全なデータを収集し、精神障害や保健サービス受診歴のような、特徴に関連するより包括的なデータの収集が可能となる。

解析とデータの精査

ニュージーランドにはデータ収集に関して堅実なシステムがあるが、国レベル、地域レベル、各組織レベルの共通した課題や傾向を概観するために、よりシステム化された一貫したデータ解析を導入する計画がある。この種のデータの精査は、死亡を予防するかもしれない要因を同定し、保健や社会サービスがそのシステムやサービスの配給を確実に改善させ続けることに有用である。

現在のニュージーランドの活動

主なデータや統計情報の出所を以下に示す。

- **検死システム**：1999年より検死局（Office of the Coroner）が検死報告書に基づく限定された情報の国家データベースを運営している。このデータベースに基づく情報は大規模調査プロジェクトの要請を行うことで利用可能である。検死法 2006（Coroners Act 2006）の可決に伴い、自殺報告の時宜性を増し、更に一貫性を増すために様々な修正がなされつつある。これらの修正として、新たに主任検死局や検視サービス部門の設置、14名の24時間稼働の検死官の配置、傾向の解析を可能とする中央データベースの設置が含まれる。
- **保健情報サービス**：ニュージーランド保健情報サービス（New Zealand Health Information Service）は保健に関連する情報を収集し、公表している。自殺および精神保健に関する情報が集められているデータベースには、死亡データ収集（Mortality Data Collection）、登録に必要な最小限の国民データセット（National Minimum Dataset）、および国民精神保健情報収集（Mental Health Information National Collection）が含まれる。公衆衛生情報（Public Health Intelligence）（PHI）は保健省の疫学部門である。その役割は保健アウトカムの解析に集約されている。これには、自殺行動や保健の不平等に関する調査が含まれる。PHIは自殺や意図的な自傷の傾向について解析した定期統計報告を公表している。

調査の拡張

自殺行動の特性、関連性、原因についての調査

ニュージーランドは、自殺行動の特性、関連性、原因について、様々な調査手法を用いて大規模調査を行っている（Beautrais 2003b; Bennett et al 2002; Caspi et al 2003; Collings et al 2005; Coupe 2005; Fergusson et al 2000; Nada-Raja et al 2004; Oakley Brown et al 2006; Tiatia 2003）。ニュージーランドの自殺に関する調査を維持させるための投資と、新たな関心領域に対応するための投資が正当化されている。今後の調査として優先順位の高い領域として、以下が挙げられる。それぞれの領域は、広範に及ぶ調査に関する今後の視点を含んでいる。

- **マオリ族集団における自殺行動**：35歳以下のマオリ族の自殺率の高さが問題であり、今後、調査が必要

である。この調査に関して二つのアプローチが可能である。一つ目は、青少年調査 2000 および 2007 や、Te Rau Hinengaro：ニュージーランド精神保健調査のような既存のデータベースの更なる解析による。これらの調査には、民族、自殺行動、保健サービスの利用や精神保健に関する住民レベルの大規模データが含まれている。二つ目としては、マオリ族の視点からマオリ族の自殺に関連する課題を調査する kaupapa（訳者注：元々は、マオリ族の伝統的な知識の概念化を意味する）マオリ族アプローチを用いて更に調査を実施する方法がある。マオリ族の視点によるマオリ族の自殺の調査を展開する場合の課題については、後の章で考察する。

- **他の民族集団における自殺行動：**マオリ族の自殺に関する更なる調査の必要性和同様に、太平洋系の人々やアジア系集団の課題についても更に調査が必要である。再度、青少年調査 2000 および 2007 や、Te Rau Hinengaro：ニュージーランド精神保健調査がこれらの課題に対応するための重要な情報源となる。太平洋系の人々についての課題は、後の章で考察する。
- **自殺行動の危険性の高い集団：**差別、障害、不利な立場のために様々な集団で、自殺行動の危険性が高いだろう。これらの集団として、重症かつ慢性の精神障害を患う人々（例えば、統合失調症、摂食障害）、ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダーやインターセックスの人々、囚人、障害者、慢性疾患を患う人々が含まれる。これらの集団の自殺行動への脆弱性を高める要因に関する調査は重要である。
- **自殺行動の測定指標：**自殺調査の現在の課題は、自殺行動の定義や測定、およびより一般的な自傷と自殺行動とをどう結びつけるか、ということと関連する。特に、'自殺'、'自殺企図'、'自傷'という用語がしばしば交換可能な言葉として使用されているが、自傷の多くが死ぬ意図を持って行われていないことを示すエビデンスが増加している（De Leo et al 2006）。また、自殺行動に対する態度や自殺行動の報告に関する、民族や文化的な差についてはほとんど分かっていない。
- **群発自殺、メディアの影響および関連する課題：**自殺の伝播、群発自殺、メディアによる自殺報道の特性に関連する問題は議論の余地が残っている。これらの課題に関してニュージーランドの調査は限界がある。群発自殺、メディアの影響、およびこの領域の政策に必要な情報に関する調査に対して投資する必要がある。
- **自殺行動の既往のある人々の視点および経験：**自殺調査で聴取された自殺行動を経験した人々の声についてももっと知る必要がある。彼らの視点は、サービス利用者とサービス提供者の間の接点や、回復の過程や経路に関する重要な眼識を提供するだろう。
- **自殺行動に影響を受けた人々の視点：**同様に、家族、whanau（訳者注：マオリ族の拡大家族）、自殺や自殺行動により死別したまたは影響を受けた重要な人々の視点は政策やサービスの開発に貢献する重要な視点となり得る（Beautrais 2004b, 2004c; Jordan and McMenemy 2004）。
- **危険因子と保護因子：**これまでの多くの研究は、自殺行動の危険性を増す要因の同定に焦点が当てられてきた。抵抗性（resiliency）を導く要因についてはあまり注意が払われてこなかった。抵抗性（resiliency）の源は、遺伝子から文化的背景にまで渡る広範な要因に広がるであろう。このため、生物学や個別のまたは社会的な環境の相互作用を認めている生物・心理社会モデルに基づく調査が重要である（Engel 1980）。
- **自殺行動の生物学的基盤についての理解の増進：**ニュージーランドの調査はそのほとんどが専ら、個人や家族、社会、文化に関連する自殺の原因に焦点を当ててきた。Caspi とその共同研究者らにより示された、自殺およびうつ病における 5HTT 遺伝子の役割について記述した業績が、この傾向の例外である（Caspi et al 2003）。しかし、世界全体では、神経生物学と自殺を結びつけた業績が増えてきている。自殺行動が、遺伝や神経生物学、社会環境の複雑な相互作用を反映したものであることが示されている。抵抗性（resiliency）の生物学的基盤を理解する上でこの業績は特に重要である。

トランスレーショナル研究と評価

自殺行動の特性、原因、結果についてまだ多く知るべきことが残っているが、この領域の調査はエビデンスに基づき自殺行動を予防するためのアプローチの開発が可能で進んでいる（Beautrais et al 2007; Mann et al 2005）。トランスレーショナル研究は自殺の特性や関連要因および原因についての知識を、自殺行動の率を減らすことを目的とした効果的な政策やプログラムに移行させる、'科学から実践'という枠組みを提供する。

プログラムを効果的に開発し実施するための一般的な原則は、現在、'予防科学'として知られるようになってきた領域の焦点である。以下が、予防科学の枠組みとしてプログラム開発の鍵となる領域である。

- プログラムの構造は、将来的に見込みのある政策や介入法を開発するために、理論と調査からのエビデンスに基づく

- プログラム開発では、可能な限り、一般人口にどの程度そのプログラムが受け入れられ、実施可能性があるかを調べるために試行プログラムを事前に実施する。この過程段階では、非効果的なプログラムや、はやまって開始することによる有害作用を防ぐことが重要である。
- 可能であれば、プログラム開発や実施の間に、プログラムの構成やその配給過程、およびその効果や有効性、対費用効果を調べるための評価を実施する。プログラムの効果は理想的な条件下におけるプログラムの有効性を意味する。一方、プログラムの有効性は実社会の条件下におけるプログラムの有効性を意味する (Society for Prevention Research nd)。

この活動計画に関連して、トランスレーショナル研究の二つの重要な適用法がある。一つ目として、活動から生じたプログラムや政策、介入は、予防科学的アプローチによる決定的な調査や評価要素を用いて開発されるべきである。二つ目としては、特定のプログラムや政策、戦略の有効性に関する、サービスから派生した、もしくは研究者発案の研究の促進に適用される。

自殺対策に従事する職の開発 (人材育成)

ニュージーランドの自殺調査で更に取り組む必要がある点として、調査に従事する職種の開発がある。これまで、自殺調査は比較的少人数の研究者や小さな調査チームにより実施されてきた。この職種を更に拡大させる必要があり、様々な研究分野に広げ、調査により得られた結果を政策助言者やサービスを計画する人、サービスを提供する人が確実に効果的に使えるようにするための検討が必要である。鍵となる職種として以下が挙げられる：

- マオリ族や太平洋系の人々の自殺予防研究者を増やす
- 調査に関連する職種が確実に支援されるように、十分な、かつ継続する自殺調査のための資金を履行する
- 自殺調査やその後の調査の結果を、政策助言者、サービス計画者、サービス提供者に、より知ってもらう
- 政策開発やサービスの提供に関連する課題について、研究者の理解をより進める
- 研究者や政策助言者、サービス計画者、サービス提供者の間の協働を強める

ニュージーランドの現在の活動

調査基盤の拡大を支援するための既存の構造および政策

Te Tahuu — 精神保健の改善 2005-2015 (Te Tahuu - Improving Mental Health 2005-2015) (Minister of Health 2005) や Te Kokiri (訳者注：マオリ語の槍を意味するが、ここでは精神保健と依存に関する活動計画を指す) (Minister of Health 2006) に記述されているように、精神保健に関する調査および開発戦略は、以下に記述した内容を提供することで自殺調査を支援することが可能である：

- 一般住民中の精神保健に関する疫学等の戦略的情報
- 結果指標測定のための手段、結果の評価方法、および鍵となる実行具合の指標などの評価や精査を援助するための手段
- 品質管理を援助する、あるいは最良の精神保健サービスの実践を援助するトランスレーショナル研究を含む、調査と開発

更に、Te Kokiri (訳者注：マオリ族の言葉で槍を意味する言葉、前述で説明されている保健省の保健計画) (Minister of Health 2006) の活動 5.6 に記述されている、マオリ族の精神保健調査の項目は、サービス計画やその提供を知らせるために精神保健や依存に対する kaupapa Maori (訳者注：元々は、マオリ族の伝統的な知識の概念化を意味する。マオリ族を中心として、マオリ族の文化的背景を考慮して提供される精神保健サービス) 手法や whanau ora (訳者注：マオリ語で、家族の健康) のアプローチを促進することを目的とする。これらのアプローチは自殺予防支援を援助するだろう。

自殺行動に関する調査を支援する資金源

ニュージーランド保健調査会議 (Health Research Council of New Zealand) (HRC) は、保健調査への政府による投資の管理に責任を持つ援助担当機関である。その機関は、自殺や関連領域に関する調査に資金を提供し、優先的に資金を提供するトランスレーショナル調査を実施している。更に、保健省には、ニュージーランド自殺予防戦略 2006-2016 (New Zealand Suicide Prevention Strategy 2006-2016) (Associate

Minister of Health 2006) の実施を支援するための少額の調査資金がある。

その他の自殺研究の資金源として、政府機関や宝くじ基金、地域の調査財団、地域社会団体、大学、慈善団体による調査基金がある。

解析可能な既存の国家調査

Te Rau Hinengaro：ニュージーランド精神保健調査 (Oakley Browne et al 2006) は、精神障害有病率についての最初の国家調査で、自殺行動についてのデータが含まれている。この調査のデータベースは、様々な集団の精神障害や自殺行動の率について追加の情報を提供する解析が更に可能である。

自殺行動に関する更なる調査のための視点を提供する他の既存のデータベースとして、青少年 2000, 2007 調査 (Youth 2000 and 2007 surveys) (Adolescent Health Research Group 2003) や、カンタベリー自殺プロジェクト (Canterbury Suicide Project) (Beautrais 2001b, 2003a, 2004a)、クライストチャーチ保健開発研究 (Christchurch Health and Development Study) (Fergusson et al 2000)、ダニーディン多職種保健開発研究 (Dunedin Multidisciplinary Health and Development Study) (Nada-Raja et al 2004)、Whakamomori マオリ族自殺予防研究 (Whakamomori Maori Suicide Prevention Study) (Coupe 2005)、精神保健一般実践調査 (Mental Health and General Practice Investigation) (MaGPI Research Group 2003) がある。

調査および情報の普及増進

効果的で正確で安全に統計情報や調査エビデンスを普及させることは、全ての情報や調査プログラムにとって重要な構成要素である。この構成要素には、自殺予防にどのように貢献するかに関する利用可能で最適なエビデンスに基づいた実践的助言の提供が含まれる。

特に、調査知見の聴衆は、政策決定者や実践者である。政策決定者は、調査を政策に翻訳する役割を担い、実践者は、供給するサービスに影響する調査や政策に関して最新の情報を得る必要がある。調査結果を聴く人々が調査にアクセスする方法や、研究者が効果的にこれらの人々とコミュニケーションを取るための方法を確立する必要がある。

特に、自殺に関する調査や予防活動に関する、情報や公衆衛生上のメッセージの普及が課題となる。そのような情報はエビデンスに基づき、自殺伝播の危険性を高めない方法で提示されることが重要である。また、ある特定の聴衆に対する個別の情報も重要である。効果的で安全な普及のための様々な方法や様式を探り、評価するための調査の機会がある。

情報ネットワークを開発、維持し、関連する資料を流布するための中央となる箇所が一つあるいはそれ以上必要である。普及のための中央となる箇所は、自殺予防に関する安全で正確な情報を探している地域社会の人が初めてコンタクトする箇所として機能することも出来る。この役割は、様々な聴衆が、用心深く開発され、評価され、そして効果が確認された自殺予防プログラムについての情報を強く要求していることを考慮すると、特に重要である。

ニュージーランドの現在の活動

研究や情報を普及させるための方法

自殺に関連する情報は幾つかの方法で普及される。一つの主要な情報の出所として、保健省と契約を結び、エビデンスに基づくニュージーランドの自殺予防に関する情報を収集、集積、普及させるための中央となる箇所として機能している、精神保健財団 (Mental Health Foundation) のサービスであるニュージーランド自殺予防情報 (Suicide Prevention Information New Zealand) (SPINZ) がある。SPINZ は地域ベースのグループや専門家、機関への情報の普及に焦点を当てている。

その他の情報の出所として、自殺調査ネットワーク (Suicide Research Network) (SRN) がある。自殺に関心のある研究者からなる、このインターネットベースのグループは、ニュージーランドの自殺や自殺予防に関連する問題について評釈し、関連する問題についての文書の作成を行う。

自殺調査や情報の提供元

様々な自殺予防に関する情報が利用可能である。最良の実践のためのガイドラインやサービス供給のための手法・道具一式、自殺遺族や自殺行動に影響を受けた人々に対する資料が、これに含まれる。保健省は毎年、統計情報についての出版も行っている。

マオリ族や tangata whenua（訳者注：この地の人々）の自殺行動の原因や効果的な介入についてのエビデンスを拡張させる

マオリ族の自殺や自殺行動の予防に関して、公平な結果を達成するために、更に調査へ投資することが重要である。

ニュージーランドの多くの人々の保健に関する要求に対応する一般的な介入は、多くのエビデンスで支持されている。しかし、マオリ族に特異的な保健に関する要求に対応する活動についての調査エビデンスは欠如している。調査アプローチはマオリ族にとって受け入れられるものでなければならない。様々なマオリ族の調査に関連する記述を付録 2 に記載した。

Coupe (2005) による最近のマオリ族に特化した研究 (2005) で、悪い精神保健状態に次いで、マオリ族の自殺企図に関連する危険要因は文化的同一性、マリファナ使用、対人関係の虐待であることが示された。マオリ族における自殺行動の理解をより深いものとするために、マオリ族による調査が更に必要である。特に、若いマオリ族女性における高い自殺企図率、マオリ族青少年の高い自殺率および 35 歳以下のマオリ族の有意に高い自殺率に対応する介入法の因果関係、有効性、効果に関する知見を拡大し、検討し、同定するための調査が必要である。マオリ族の自殺予防調査を設立し開発するための作業工程表により、実質的に調査の開始が可能となった。

太平洋系の人々の課題

Te Rau Hiengaro: ニュージーランド精神保健調査 (Te Rau Hinengaro: The New Zealand Mental Health Survey) (Oakley Browne et al 2006) により集められた情報を更に解析することが、太平洋系の人々の集団における自殺行動や精神保健に関する課題を調査するための鍵となる最初の段階である。データを更に解析することで、太平洋系の人々を対象とした今後のサービスや介入を計画する際に必要な情報が得られた。特に、太平洋系の人々は精神保健の問題に際して保健サービスにあまりアクセスしないという報告を考慮すると、この調査データから、自殺企図をした太平洋系の人々によるサービスの利用について、より詳細な情報が得られる。

自殺データは更に正確になってきているが、民族に関する正確な記録が欠如しているために太平洋系の人々の自殺や自殺行動についてのデータは、不正確かもしれないという懸念が残る。太平洋系の人々の要求により良く対応するため、存在率、発生率、サービス供給についての民族に特化したデータの収集と報告を強化することが必要である。

調査の必要な他の領域として以下が挙げられる：

- 太平洋系の人々の家族や地域社会の自殺に対する態度や伝統的な信念や態度に対する影響
- 太平洋系の人々に対する効果的な自殺予防介入
- 太平洋系の人々の家族や地域社会に対する事後対応（ポストベンション）
- 同定すべき特異的な太平洋系の人々の民族性の趨勢を把握することを可能とするための民族特異的データの改良

活動の鍵となる領域

自殺データの質と時宜性の改善

- 7.1 自殺に関連するデータの改善。この活動はニュージーランドの自殺行動についての情報をより正確にするために重要である。この活動には、自殺および自殺企図に関する国家的データの一貫性を改善すること、自殺企図に関して完全なデータを収集するための調査施設の設立可能性を調べること、民族データ収集を改善することが含まれる。
- 7.2 自殺データの時宜性に関する課題に対応する。時宜にかなう統計情報は、自殺および自殺企図率に対するこの活動計画の影響をモニターするために必要である。この活動には、傾向についての迅速な解析を可能とするための検死データベースの設置のような検死報告の改善が含まれる。
- 7.3 自殺死亡調査委員会設立可能性の検討。この委員会の鍵となる職務は、ニュージーランドの自殺および自殺企図に関する傾向および問題を同定するために、データの定期的な調査を実施することにある。

調査基盤の拡張

- 7.4 自殺に関連する既存のデータベースの解析。自殺に関連する問題についての一般集団（ポピュレーション）レベルの詳細なデータは既存のデータベースに含まれている。例えば、青少年調査 2000 および 2007、Te Rau Hinengaro 調査がある。これらのデータベースから、自殺についての知識を更に得る事ができるかどうかについて検討されるべきである。
- 7.5 新たな自殺予防活動の評価。この活動計画により実施される自殺予防活動を成功させるためには適切な評価が重要である。このため、この活動計画に基づく活動は、適切な評価とともに、予防科学のアプローチに従い開発される必要がある。
- 7.6 保健調査会議（Health Research Council）（HRC）を介する資金提供の継続。自殺調査に資金を提供する HRC の現在の役割が継続されるべきである。更に、トランスレーショナル研究や評価に焦点を当てた予防科学アプローチを用いた調査が、強調して継続されるべきである。
- 7.7 ニュージーランド自殺予防戦略 2006-2016（New Zealand Suicide Prevention Strategy 2006-2016）の実施支援をしている保健省自殺予防調査基金による調査資金提供。
- 7.8 マオリ族自殺調査への投資。前述したように、マオリ族の自殺の問題は、この活動計画の優先項目である。この領域の政策開発に情報を提供するために、マオリ族の自殺行動に関する調査に対して、支援し資金を提供しなければならない。マオリ族自殺調査への投資として以下が含まれるだろう：(a) マオリ族調査についての今後の協議項目；(b) 既存データベース解析へのマオリ族研究者の関与の増加；(c) マオリ族精神保健調査職の更なる開発；(d) 様々な適切な調査手法を用いたマオリ族自殺調査に対する投資の増強（付録 2 参照）。

調査および情報の普及

- 7.9 自殺予防調査および情報普及計画の開発、実施、および評価。これは、特定の情報を必要としている人が要求する調査や情報に沿った計画となり、特異的にマオリ族サービス提供者やマオリ族地域社会の要求を含む計画となる。これは、安全で、効果的で、エビデンスに基づく普及原則を手引きとする。

付録 1 : 諮問グループの構成員とこの活動計画の開発に貢献した人々

Taskforce

Dr David Chaplow, Ministry of Health (Chair)
Dr Nick Baker, Nelson-Marlborough DHB
Dr Jo Baxter, University of Otago
Associate Professor Annette Beautrais, University of Otago
Dr Sunny Collings, Consultant Psychiatrist and Senior Lecturer, University of Otago
Dr Barbara Disley, formerly Ministry of Education
Gareth Edwards, Mental Health Consultant
Professor David Fergusson, University of Otago
Molly Fiso, Pacific Island Women's Project
Dr Simon Hatcher, University of Auckland
Dr David Kerr, General Practitioner
Materoa Mar, Mental Health Consultant
Mary Smith, Lakes DHB
Merryn Statham, Suicide Prevention Information New Zealand
Phyllis Tangitu, Lakes DHB
Dr Alison Taylor, Public Health and Youth Consultant

Maori Caucus

Tuwhakairiora Williams, Whanau, Hapu, Iwi Consultant (Chair)
Dr Jo Baxter, University of Otago
Ana Bidois, Ministry of Health
Dr Nicole Coupe, Post Doctoral Fellow (Nga Pae o te Maramatanga)
Dr Hinemoa Elder, Counties Manukau DHB and Hauora Waikato
Maraea Johns, Ministry of Health
Materoa Mar, Mental Health Consultant
Arama Pirika, Kaumatua Maori Mental Health
Donny Rangiaho, Maori Mental Health Service Provider
Phyllis Tangitu, Lakes DHB
Dr Sylvia Van Altvorst, Counties Manukau DHB
Suicide Research Network Advisors
Associate Professor Annette Beautrais, University of Otago
Dr Sunny Collings, Consultant Psychiatrist and Senior Lecturer, University of Otago
Professor David Fergusson, University of Otago
Dr Simon Hatcher, University of Auckland

Pacific Advisors

Dr Monique Faleafa, Niu Mindworks Ltd
Dr Siale Foliaki, Counties Manukau DHB
Dr Jemaima Tiatia, Hibiscus Research _ Research Consultant

DHB Advisors

Joy Cooper, Wairarapa DHB
Karleen Edwards, formerly Canterbury DHB
Philip Grady, Counties Manukau DHB
Vito Malo, Capital and Coast DHB

Annette Mortensen, Northern DHB Support Agency
Mary Smith, Lakes DHB
Derek Wright, formerly Northern DHB Support Agency

Inter-Agency Committee on Suicide Prevention

Ministry of Health (Chair)
Accident Compensation Corporation, including the New Zealand Injury Prevention Secretariat
Department of Corrections
Department of Internal Affairs
Ministry of Education
Ministry of Justice
Ministry of Pacific Island Affairs
Ministry of Social Development, including Child, Youth and Family and the Ministry of Youth Development
Ministry of Women's Affairs
New Zealand Police
Te Puni Kokiri

New Zealand Reviewers

Associate Professor Rob McGee, University of Otago
Professor Tony Dowell, University of Otago
Toni Gutschlag, Canterbury DHB
Anganette Hall, Hutt Valley DHB
Kirsty Maxwell-Crawford, Te Rau Matatini
Tim Pankhurst, Commonwealth Press Union
Dr Keren Skegg, University of Otago
Dr Louise Smith, Clinical Advisory Services Aotearoa
Professor Barry Taylor, University of Otago
Jim Tully, University of Canterbury

International Peer reviewers

Professor Robert Goldney, University of Adelaide, Australia
Professor Keith Hawton, University of Oxford, United Kingdom
Associate Professor Jane Pirkis, University of Melbourne, Australia

付録 2：マオリ族調査についての記述

特 性	マオリ族を含まない調査	マオリ族を含む調査	マオリ族を中心とした調査	Kaupapa Maori 調査
記述	<p>マオリ族の参加がなく、マオリ族に関するデータを収集・検討しない調査</p> <p>結果がマオリ族に影響がないと考えられる調査</p>	<p>参加者または対象者としてマオリ族が関与する調査またはマオリ族が調査チームの一員である調査</p> <p>マオリ族のデータを収集し解析する調査</p> <p>現在の調査方法や主流の解析についてマオリ族が訓練を受けるような調査</p>	<p>マオリ族が強く参加し、調査チームの主要メンバーにマオリ族がなっている調査</p> <p>マオリ族の解析が実施され、マオリ族の知識を生み出し、主流の標準との比較のための調査</p>	<p>マオリ族が強く参加し、調査メンバー全員がマオリ族である調査</p> <p>マオリ族の解析が実施され、マオリ族の知識が生み出される調査</p> <p>マオリ族の期待や品質標準に合致する調査</p>
マオリ族の参加	無し	少ない	多い	多い、もしくはマオリ族専用
方法 / 手法	現在、主流	現在、主流	現在、主流およびマオリ族	現在、マオリ族および主流
解析	主流	主流	マオリ族	マオリ族

出展元:C Cunningham. 1998、調査、科学、技術におけるマオリ族知識に対応するための構造 (A Framework for Addressing Maori Knowledge in Research, Science and Technology)。科学技術省のための報告、p7。

参照文献

- Adolescent Health Research Group. 2003. New Zealand Youth: A profile of their health and wellbeing - early findings of Youth 2000, a national secondary school youth health survey. Auckland: University of Auckland.
- Allgulander C. 2000. Psychiatric aspects of suicidal behaviour: Anxiety disorders. In K Hawton, K van Heeringen (eds). The International Handbook of Suicide and Attempted Suicide. New York: John Wiley & Sons.
- Amos T, Appleby L, Kiernan K. 2001. Changes in rates of suicide by car exhaust asphyxiation in England and Wales. *Psychological Medicine* 31:935-9.
- Appleby L, Dennehy J, Thomas C et al. 1999. Aftercare and clinical characteristics of people with mental illness who commit suicide: a case-control study. *The Lancet* 353: 1397-400.
- Asian Public Health Project Team. 2003. Asian Public Health Project Report February 2003. Auckland Regional Public Health Service. URL: <http://www.asianhealth.govt.nz>. Accessed 19 November 2007.
- Associate Minister of Health. 2006. The New Zealand Suicide Prevention Strategy 2006-2016. Wellington: Ministry of Health.
- Bathgate M, Pulotu-Endemann FK. 1997. Pacific people in New Zealand. In P Ellis, S Collings (eds.) *Mental Health in New Zealand from a Public Health Perspective*. Wellington: Ministry of Health.
- Beautrais AL. 2000a. Restricting Access to Means of Suicide in New Zealand: A report prepared for the Ministry of Health on methods of suicide in New Zealand 1997-1996. Wellington: Ministry of Health.
- Beautrais AL. 2000b. Risk factors for suicide and attempted suicide amongst young people. Report prepared for the National Health and Medical Research Council. Canberra: NH & MRC.
- Beautrais AL. 2001a. Effectiveness of barriers at suicide jumping sites: A case study. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 35: 557-62.
- Beautrais AL. 2001b. Suicides and serious suicide attempts: Two populations or one? *Psychological Medicine* 31: 837-45.
- Beautrais AL. 2002. A case control study of suicide and attempted suicide in older adults. *Suicide and Life-Threatening Behavior* 32: 1-9.
- Beautrais AL. 2003a. Subsequent mortality in medically serious suicide attempts: A 5 year follow-up. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 37: 595-9.
- Beautrais AL. 2003b. Suicide and serious suicide attempts in youth: A multiple-group comparison study. *American Journal of Psychiatry* 160: 1093-9.
- Beautrais AL. 2004a. Further suicidal behaviour among medically serious suicide attempters. *Suicide and Life-Threatening Behaviour* 34: 1-11.
- Beautrais AL. 2004b. Suicide Postvention. Support for families, whanau and significant others after a Suicide: A literature review and synthesis of evidence. URL: <http://www.moh.govt.nz>. Accessed 19 November 2007.
- Beautrais, AL. 2004c. Support for Families, Whanau and significant others after a Suicide Attempt: A literature review and synthesis of the evidence. URL: <http://www.moh.govt.nz>. Accessed 19 November 2007.
- Beautrais AL. 2006. Women and suicidal behaviour. *Crisis* 27: 153-6.
- Beautrais AL, Coggan CA, Fergusson DM, et al. 1998. Young people at risk of suicide: A guide for schools. Wellington: Ministry of Education and National Health Committee.
- Beautrais AL, Collings SC, Ehrhardt P, et al. 2005. Suicide Prevention: A review of evidence of risk and protective factors, and points of effective intervention. Wellington: Ministry of Health.
- Beautrais A, Fergusson D, Coggan C, et al. 2007. Effective strategies for suicide prevention in New Zealand: A review of the evidence. *The New Zealand Medical Journal* 120 (1251): U2459.
- Beautrais AL, Fergusson DM, Horwood LJ. 2006. Firearms legislation and reductions in firearm-related suicide deaths in New Zealand. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 40:253-9.
- Beautrais AL, Horwood LJ, Fergusson DM. 2004. Knowledge and attitudes about suicide in 25-year olds. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 38: 260-5.

- Beautrais AL, Joyce PR, Mulder RT. 1998. Youth suicide attempts: A social and demographic profile. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 32: 349-57.
- Beautrais AL, Joyce PR, Mulder RT. 1996. Risk factors for serious suicide attempts among youth aged 13-24. *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry* 35: 1174-82.
- Beautrais AL, Joyce PR, Mulder RT, et al. 1996. Prevalence and comorbidity of mental disorders in persons making serious suicide attempts: A case control study. *American Journal of Psychiatry* 153: 1009-14.
- Beautrais AL, Joyce PR, Mulder RT. 1997. Precipitating factors and life events in serious suicide attempts among youths aged 13 through 24 years. *Journal of American Academy of Child and Adolescent Psychiatry* 36: 1543-51.
- Beautrais AL, Joyce PR, Mulder RT. 2000. Unmet need following serious suicide attempt: Follow-up of 302 subjects for 30 months. In: G Andrews, S Henderson, (eds). *Unmet Need in Psychiatry*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Bennett S, Coggan C, Adams P. 2002. Young people's pathways to well-being following a suicide attempt. *International Journal of Mental Health Promotion* 4: 25-32.
- Bennett S, Coggan C, Brewin M. 2003. Evidence for student focused school-based suicide prevention programmes: Criteria for external providers. Auckland: Injury Prevention Research Centre (Te Puu Taki Aukati Whara).
- Blakely TA, Collings SCD, Atkinson J. 2003. Unemployment and suicide: Evidence for a causal association? *Journal of Epidemiology and Community Health* 57: 594-600.
- Boyce P, Carter G, Penrose-Wall J, et al. 2003. Summary Australian and New Zealand clinical practice guideline for the management of adult deliberate self-harm. *Australasian Psychiatry* 11: 150-5.
- Bridge J, Iyengar S, Salary C, et al. 2007. Clinical response and risk for reported suicidal ideation and suicide attempts in paediatric antidepressant treatment: A meta-analysis of randomized controlled trials. *Journal of the American Medical Association* 297: 1683-96.
- Brown G, Ten Have T, Henriques G, et al. 2005. Cognitive therapy for the prevention of suicide attempts: A randomized controlled trial. *Journal of the American Medical Association* 294: 563-70.
- Brown TN, Williams DR, Jackson JS, et al. 2000. Being black and feeling blue: the mental health consequences of racial discrimination. *Race and Society* 2: 117-31.
- Bryant RA, Njenga FG. 2006. Cultural sensitivity: Making trauma assessment and treatment plans culturally relevant. *Journal of Clinical Psychiatry* 67 (Suppl 2): 74-79.
- Bucca M, Ceppi M, Peloso P et al. 1994. Social variables and suicide in the population of Genoa, Italy. *Comprehensive Psychiatry* 35: 64-9.
- Bywaters J, Foster K, Scott J. 2006. Internet sites that promote suicide: 11th European Symposium on Suicide and Suicidal Behaviour. *Psychiatria Danubina* 18: 97.
- Cantor C, Turrell G, Baume P. 1996. *Access to Means of Suicide by Young Australians: A background report*. Carina, Queensland: Australian Institute for Suicide Research and Prevention.
- Carragher DJ, Rivers I. 2002. Trying to Hide: A Cross-National Study of Growing UP for Non-Identified Gay and Bisexual Male Youth. *Clinical Child Psychology and Psychiatry* 7(3): 457-74.
- Carter G, Clover K, Whyte I, et al. 2005. Postcards from the Edge project: Randomised controlled trial of an intervention using postcards to reduce repetition of hospital treated deliberate self poisoning. *British Medical Journal* 331: 805-9.
- Caspi A, Sugden K, Moffitt TE, et al. 2003. Influence of life stress on depression: Moderation by a polymorphism in the 5-HTT gene. *Science* 301:291-3.
- Cavanagh JT, Carson AJ, Sharpe M, et al. 2003. Psychological autopsy studies of suicide: A systematic review. *Psychological Medicine* 33: 395-405.
- Cavanagh JT, Owens DG, Johnstone EC. 1999. Life events in suicide and undetermined death in south-east Scotland: A case-control study using the method of psychological autopsy. *Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology* 34: 645-50.
- CDC. 2006. Toxicology testing and results for suicide victims -13 states. 2004. *Morbidity and Mortality Weekly Report*. 55 (46):1245-8.

- Chambers DA, Pearson JL, Lubell K, et al. 2005. The science of public messages for suicide prevention: A workshop summary. *Suicide and Life-Threatening Behavior* 35 (2): 134-45.
- Child, Youth and Family. 2000. *Towards Well-Being. Responding to the Needs of Young People*. Wellington: Department of Child, Youth and Family Services.
- Chochinov H, Wilson K, Enns M, et al. 1998. Depression, Hopelessness and Suicidal Ideation in the Terminally Ill. *Psychosomatics* 39: 366-370.
- Code of Practice Committee (Newspaper and Periodical Industry, UK). 2006. Editors' Code of Practice. URL: http://www.pcc.org.uk/assets/111/Code_aug_06.pdf. Accessed 4 November 2007.
- Coker AL, Hanks JS, Eggleston K, et al. 2006. Social and mental health needs assessment of Katrina evacuees. *Disaster Management and Response* 4: 88-94.
- Collings S, Beautrais AL. 2005. *Suicide Prevention in New Zealand: A contemporary perspective*. Wellington: Ministry of Health.
- Collings S, Blakely T, Atkinson J, et al. 2005. *Suicide Trends and Social Factors - New Zealand 1981 to 1999: Analyses from the New Zealand Census-Mortality Study*. Wellington: Ministry of Health.
- Comtois K, Linehan M. 2006. Psychosocial treatments of suicidal behaviors: A practice-friendly review. *Journal of Clinical Psychology in Session* 62: 161-170.
- Corrigan P, Penn DL. 1999. Lessons from social psychology on discrediting psychiatric stigma. *American Psychologist* 54: 765-76.
- Coupe NM. 2005. *Whakamomori Māori Suicide Prevention*. PhD Thesis. Massey University, Palmerston North, New Zealand.
- Cox LA, Edison DL, Stewart RL, et al. 2006. Management of Recruit Suicide. In: B DeKoning (ed). *Recruit Medicine*. Washington, DC: Borden Institute.
- Crane C, Hawton K, Simkin S, et al. 2005. Suicide and the media: Pitfalls and prevention. *Crisis* 26: 42-47.
- Crawford M, Kumar P. 2007. Intervention following deliberate self-harm: enough evidence to act? *Evidence Based Health Management ONLINE* 10: 37-9. URL: <http://www.ebmentalhealth.com>.
- Crawford MJ, Thomas O, Khan N, et al. 2007. Psychosocial interventions following self-harm: Systematic review of their efficacy in preventing suicide. *British Journal of Psychiatry* 190: 11-17.
- Dake JA, Price JH, Telljohann SK. 2003. The nature and extent of bullying at school. *Journal of School Health* 73: 173-80.
- D'Augelli AR, Hershberger SL, Pilkington BA. 1998. Lesbian, Gay and Bisexual Youth and Their Families: Disclosure of sexual orientation and its consequences. *Journal of American Orthopsychiatry* 68(3): 361-70.
- Davidson JRT. 2006. Foreword. After the tsunami: Mental health challenges to the community for today and tomorrow. *Journal of Clinical Psychiatry* 67 (Suppl 2): 3-8.
- Davidson JRT, McFarlane AC. 2006. The extent and impact of mental health problems after disaster. *Journal of Clinical Psychiatry* 67 (Suppl 2): 9-14.
- Davidson LE. 1989. Suicide Clusters and Youth. In CR Pfeffer (ed). 1989. *Suicide among Youth: Perspectives on risk and prevention*, Washington: American Psychiatric Press.
- de Graaf R, Sandfort TGM, ten Have M. 2006. Suicidality and sexual orientation: Differences between men and women in a general population-based sample from the Netherlands. *Archives of Sexual Behavior* 35(3): 253-62.
- De Hert M, McKenzie K, Peuskens J. 2001. Risk factors for suicide in young people suffering from schizophrenia: a longterm follow-up study. *Schizophrenia Research* 47: 127-34.
- De Leo D, Burgis S, Bertolote J, et al. 2006. Definitions of suicidal behaviour: Lessons learned from the WHO/EURO multicentre study. *Crisis* 27: 4-15.
- De Leo D, Dello Buono M, Dwyer J. 2002. Suicide among the elderly: The long term impact of a telephone support and assessment intervention in northern Italy. *British Journal of Psychiatry* 181: 226-9.
- Denny S, Balhorn A, Lawrence A, et al. 2005. Student access to primary care and preventative health screening at a school-based health centre in South Auckland, New Zealand. *New Zealand Medical Journal* 118 (1218).

- Department of Health and Ageing. 2004. Summary Report: News media and indigenous Australian communities. Canberra: Commonwealth of Australia.
- Department of Health and Ageing. 2006. Reporting Suicide and Mental Illness: A mindframe resource for media professionals. Canberra: Commonwealth of Australia.
- D'Onofrio G, Pantaloni MV, Degutis LG, et al. 2005. Development and implementation of an emergency practitioner-performed brief intervention for hazardous and harmful drinkers in the Emergency Department. *Academic Emergency Medicine* 12: 249-56.
- Druss B, Pincus H. 2000. Suicidal ideation and suicide attempts in general medical illnesses. *Archives of Internal Medicine* 160:1522-26.
- Dunne EJ. 1992. Following a suicide: Postvention. In: B Bougar (ed). *Suicide Guidelines for Assessment, Management and Treatment*. London: Oxford University Press.
- Durie M. 1994. *Whaiora: Māori health development*. Auckland: Oxford University Press.
- Durie M. 1998. *Whaiora (2nd edition)*. Auckland: Oxford University Press.
- Durie M. 1999. *Te Pae Mahutonga: A model for Maori health promotion*. Unpublished paper. Palmerston North: School of Maori Studies, Massey University.
- Durkheim E. 1897. *Suicide: A study in sociology*. Translated from the French *Le Suicide: Etude de Sociologie* by JA Spaulding and G Simpson. 1951. New York: The Free Press of Glencoe.
- Dyall L. 1997. Maori. In P Ellis and S Collings (eds). *Mental Health in New Zealand from a Public Health Perspective*. Wellington: Ministry of Health.
- Earls F, Escobar JI, Manson SM. 1990. Suicide in minority groups: Epidemiologic and cultural perspectives. In: SJ Blumenthal, DJ Kupfer, (eds) *Suicide Over the Life Cycle: Risk factors, assessment, and treatment of suicidal patients*. Washington DC: American Psychiatric Press.
- Ellis P, Collings S (eds). 1997. *Mental Health in New Zealand From a Public Health Perspective*. Wellington: Ministry of Health.
- Ellis P, Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists Clinical Practice Guidelines Team for Depression. 2004. Australian and New Zealand clinical practice guidelines for the treatment of depression. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 38: 389-407.
- Engel G. 1980. The clinical application of the biopsychosocial model. *American Journal of Psychiatry* 137: 535-44.
- Faleafa M, Lui D, Afaaso B, et al. 2007. *Paolo' O o'u Paolo out e malu ai' It is my people that give me shelter'*: Embracing our Samoan communities: Suicide prevention information for people working with Samoans in Niu Sila. Auckland: Mental Health Foundation of New Zealand.
- Feinstein A. 2002. An examination of suicidal intent in patients with multiple sclerosis. *Neurology* 59: 674-78.
- Fergusson D, Beautrais AL, Horwood LJ. 2003. Vulnerability and resiliency to suicidal behaviours in young people. *Psychological Medicine* 33: 61-73.
- Fergusson D, Horwood LJ. 1998. Exposure to interparental violence in childhood and psychosocial adjustment in young adulthood. *Child Abuse & Neglect* 22: 339-57.
- Fergusson D, Horwood LJ, Beautrais AL. 1999. Is sexual orientation related to mental health problems and suicidality in young people? *Archives of General Psychiatry* 56: 876-80.
- Fergusson D, Horwood LJ, Ridder E. 2005. Partner violence and mental health outcomes in a New Zealand birth cohort. *Journal of Marriage and the Family* 67: 1103-19.
- Fergusson D, Horwood LJ, Ridder E et al. 2005. Sexual orientation and mental health in a birth cohort of young adults. *Psychological Medicine* 35: 971-981.
- Fergusson D, Lynskey MT. 1997. Physical punishment/maltreatment during childhood and adjustment in young adulthood. *Child Abuse and Neglect* 21: 617-30.
- Fergusson D, Woodward LJ, Horwood LJ. 2000. Risk factors and life processes associated with the onset of suicidal behaviour during adolescence and early adulthood. *Psychological Medicine* 30: 23-39.

- Fitzpatrick KK, Euton SJ, Jones JN, et al. 2005. Gender role, sexual orientation and suicide risk. *Journal of Affective Disorders* 87: 35-42.
- Fleming T, Merry S, Robinson S, et al. 2007. Self-reported suicide attempts and associated risk and protective factors among secondary school students in New Zealand. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 41: 213-21.
- Gibb S, Beautrais AL. 2004. *Attempted Suicide in Canterbury*. Christchurch: Christchurch School of Medicine and Health Sciences.
- Gibb S, Beautrais AL, Fergusson DM. 2005. Mortality and further suicidal behaviour after an index suicide attempt: A 10 year study. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 39: 95-100.
- Gilbody S, Whitty P, Grimshaw J, et al. 2003. Educational and organizational interventions to improve the management of depression in primary care: a systematic review. *Journal of the American Medical Association* 289: 3145-51.
- Glick I, Zaninelli R, Hsu C, et al. 2004. Patterns of concomitant psychotropic medication use during a 2-year study comparing clozapine and olanzapine for the prevention of suicidal behavior. *Journal of Clinical Psychiatry* 65: 679-85.
- Goldney RD, Fisher LJ, Dal Grande E, et al. 2007. Have education and publicity about depression made a difference? A comparison of prevalence, service use and excess costs in South Australia: 1998 and 2004. *Australian & New Zealand Journal of Psychiatry* 41: 38-53.
- Gould MS. 1990. Suicide clusters and media exposure. In: SJ Blumenthal SJ, DJ Kupfer, (eds). *Suicide Over the Life Cycle: Risk factors, assessment, and treatment of suicidal patients*. Washington, DC: American Psychiatric Press.
- Gould MS. 2001. Suicide and the media. *Annals of the New York Academy of Sciences*. 932: 200-21.
- Gould MS, Fisher P, Shaffer D, et al. 1996. Psychosocial risk factors of child and adolescent completed suicide. *Archives of General Psychiatry* 53: 1155-62.
- Gould MS, Kalafat J, Harris Munfakh J. 2007. An evaluation of crisis hotline outcomes: Part 2 - suicidal callers. *Suicide and Life-Threatening Behavior* 37: 338-52.
- Gould MS, Wallenstein S, Davidson L. 1989. Suicide clusters: A critical review. *Suicide and Life-Threatening Behavior* 19: 17-29.
- Gould MS, Wallenstein S, Kleinman MH, et al. 1990. Suicide clusters: An examination of age-specific effects. *American Journal of Public Health* 80: 211-12.
- Green G, Gask L. 2006. The development, research and implementation of STORM (Skills-based Training on Risk Management). *Primary Care Mental Health* 3: 207-13.
- Gunnell DJ, Peters TJ, Kammerling RM, et al. 1995. Relation between parasuicide, suicide, psychiatric admissions, and socioeconomic deprivation. *British Medical Journal* 311: 226-30.
- Guthrie E, Kapur N, Mackway-Jones K, et al. 2001. Randomised controlled trial of brief psychological intervention after deliberate self poisoning. *British Medical Journal* 323:135-39.
- Hamilton T, Cook H. 2004. *The Management of Deliberate Self-harm in Young People. Guidelines for Hospital Departments of Emergency Medicine and Psychiatry*. Australia: Australian College for Emergency Medicine, the Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists and the Commonwealth Department of Health and Aged Care.
- Harris R, Tobias M, Jeffreys M, et al. 2006. Effects of self-reported racial discrimination and deprivation on Maori health and inequalities in New Zealand: cross-sectional study. *The Lancet* 367: 2005-9.
- Harter M, Bermejo I, Ollenschlager G, et al. 2006. Improving quality of care for depression: The German Action Programme for the implementation of evidence-based guidelines. *International Journal for Quality in Health Care* 18: 113-19.
- Hartkopp A, Bronnum-Hansen H, Seidenschnur A-M, et al. 1998. Suicide in a Spinal Cord Injured Population: Its relation to functional status. *Archives of Physical Medicine and Rehabilitation* 79: 1356-1360.
- Hawton K. 2000. General hospital management of suicide attempters. In: K Hawton, K van Heeringen (eds). *The International Handbook of Suicide and Attempted Suicide*. New York: John Wiley & Sons.
- Hawton K. 2005. Psychosocial treatments following attempted suicide: Evidence to inform clinical practice. In: K.

- Hawton (ed). *Prevention and Treatment of Suicidal Behaviour*. Oxford: Oxford University Press.
- Hawton K, Bale L, Casey D, et al. 2006. Monitoring deliberate self-harm presentations to general hospitals. *Crisis* 27: 157-163.
- Hawton K, Simkin S, Deeks J, et al. 2004. UK legislation on analgesic packs: Before and after study of long term effect on poisonings. *British Medical Journal* 329:1076-9.
- Hawton, K, Townsend, E, Arensman, et al. 1999. Psychosocial and pharmacological treatments for deliberate self harm.
- Cochrane Database of Systematic Reviews 1999, Issue 4. Art. No.: CD001764. DOI: 10.1002/14651858.CD001764.
- Hawton K, Williams K. 2001. The connection between media and suicidal behavior warrants serious attention. *Crisis* 22: 137-40.
- Hawton K, Williams K. 2002. Influences of the media on suicide. *British Medical Journal* 325:1374-5.
- Hawton K, Williams K. 2005. Media influences on suicidal behavior: Evidence and prevention. In: K Hawton (ed). *Prevention and Treatment of Suicidal Behaviour: From science to practice*. Oxford: Oxford University Press.
- Hayes LM. 1997. From chaos to calm: One jail system's struggle with suicide prevention. *Behavioral Sciences and the Law* 15: 399-13.
- Hazell P. 1993. Adolescent suicide clusters: Evidence, mechanisms and prevention. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 27: 653-65.
- Hazell P, King R. 1996. Arguments for and against teaching suicide prevention in schools. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 30: 633-42.
- Hegerl U, Althaus D, Schmidtke A et al. 2006. The alliance against depression: 2 year evaluation of a community-based intervention to reduce suicidality. *Psychological Medicine* 36, 1225-33.
- Hem E, Loge J, Haldorsen T, Ekeberg O. 2004. Suicide Risk in Cancer Patients From 1960-1999. *Journal of Clinical Oncology* 22: 4209-16.
- Henare K, Ehrhardt P. 2004. Support for Maori, Pacific and Asian Family, Whanau and Significant Others who have been bereaved by suicide: Findings of a literature search. Wellington: Ministry of Youth Development.
- Herrell R, Goldberg J, True WR, et al. 1999. Sexual orientation and suicidality: A co twin control study in adult men. *Archives of General Psychiatry* 56: 867-74.
- Herrestad H. 2006. Norwegian regulations which criminalize injunctions to suicide. 11th European Symposium on Suicide and Suicidal Behaviour. *Psychiatria Danubina* 18: 96.
- Hershberger S, D'Augelli A. 1995. The Impact of Victimization on the Mental Health and Suicidality of Lesbian, Gay, and Bisexual Youths. *Developmental Psychology* 31(1): 65-74.
- Herzog DB, Greenwood DN, Dorer DJ, et al. 2000. Mortality in Eating Disorders: A descriptive study. *International Journal of Eating Disorders* 28: 20-6.
- Hight N, Luscombe G, Davenport T, et al. 2006. Positive relationships between public awareness activity and recognition of the impacts of depression in Australia. *Australia and New Zealand Journal of Psychiatry* 40: 55-8.
- Hirini P, Collings S. 2005. Whakamomori: He whakaaro, he korero noa. A collection of contemporary views on Maori and suicide. Wellington: Ministry of Health.
- Ho E, Au S, Bedford C, et al. 2002. Mental Health Issues for Asians in New Zealand: A literature review. Wellington: Mental Health Commission.
- Hurley A. 2006. Mood disorders in intellectual disability. *Current Opinion in Psychiatry* 19: 465-9.
- Huygen C. 2006. Understanding the needs of lesbian, gay, bisexual and transgender people living with mental illness. *Medscape General Medicine* 8(2): 29.
- Hyde, P, Innes-Kent, S, Mason, N. 2006. Report of the evaluation of The LivingWorks ASIST Programme. Unpublished report produced for LifeLine Auckland.
- Institute of Medicine. 2002. *Reducing Suicide. A National Imperative*. Washington DC: The National Academies Press.
- Jane-Llopis E, Barry M, Hosman C, et al. 2005. *Mental Health Promotion Works: A Review*. Promotion and Education

Supplement (Suppl 2): 9-25.

Jesson J, Pocock R, Wilson K. 2005. Reducing medicines waste in the community. *Primary Health Care Research and Development* 6(2): 117-24.

Johannsen TH, Ripa CPL, Mortensen EL, et al. 2006. Quality of life in 70 women with disorders of sex development. *Society of the European Journal of Endocrinology* 155: 877-85.

Johansson L, Lindqvist P, Eriksson A. 2006. Teenage suicide cluster formation and contagion: Implications for primary care. *BMC Family Practice* 7: 32.

Johansson LM, Sundquist J, Johansson SE, et al. 1997. Ethnicity, social factors, illness and suicide: A follow-up study of a random sample of the Swedish population. *Acta Psychiatrica Scandinavica* 95 (2): 125-31.

Jones AL, Dargan PI. 2002. Advances, challenges, and controversies in poisoning. *Emergency Medicine Journal* 19:190-2.

Jordan JR, McMenamy J. 2004. Interventions for Suicide Survivors: A review of the literature. *Suicide and Life-Threatening Behavior* 34: 337-49.

Jorm A, Christensen H, Griffiths K. 2006. Changes in depression awareness and attitudes in Australia: The impact of beyondblue: the national depression initiative. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 40: 42-6.

Juvonen J, Graham S, Schuster MA. 2003. Bullying among young adolescents: The strong, the weak, and the troubled. *Pediatrics* 112: 1231-7.

Kalafat J, Gould M, Harris Munfakh J, et al. 2007. An evaluation of crisis hotline outcomes Part 1: Non-suicidal crisis callers. *Suicide and Life-Threatening Behavior* 37: 322-337.

Kapur N, Turnbull P, Hawton K, et al. 2006. The hospital management of fatal self-poisoning in industrialized countries: An opportunity for suicide prevention? *Suicide and Life-Threatening Behavior* 36: 302-12.

Kawachi I, Berkman LF. 2001. Social ties and mental health. *Journal of Urban Health* 78 (3): 458-67.

Kelly B, Raphael B, Judd F, et al. 1998. Suicidal Ideation, Suicide Attempts and HIV Infection. *Psychosomatics* 39: 405-415.

Kessler RC, Galeas S, Jones RT, et al. 2006. Mental illness and suicidality after hurricane Katrina. *Bulletin of the World Health Organization* 84 (12): 921-1000.

Kessler RC, Mickelson KD, Williams DR. 1999. The prevalence, distribution, and mental health correlates of perceived discrimination in the United States. *Journal of Health and Social Behaviour* 40: 208-30.

King CA, Kramer A, Preuss L. 2006. Youth-nominated support team for suicidal adolescents (Version 1): A randomized controlled trial. *Journal of Consulting & Clinical Psychology* 74: 199-206.

King R, Nurcombe B, Bickman L, et al. 2003. Telephone counselling for adolescent suicide prevention: Changes in suicidality and mental state from beginning to end of a counselling session. *Suicide and Life-Threatening Behavior* 33: 400-11.

Kishi Y, Robinson R, Kosier J. 2001. Suicidal ideation among patients with acute life-threatening physical illness: Patients with stroke, traumatic brain injury, myocardial infarction and spinal cord injury. *Psychosomatics* 42(5): 382-390.

Kitchener BA, Jorm AF. 2006. Mental health first aid training: Review of evaluation studies. *Australian and New Zealand Journal of Psychiatry* 40: 6-8.

Kizito H. 2001. *Refugee Health Care: A Handbook for Health Professionals*. Wellington: Ministry of Health.

Knox KL, Litts DA, Talcott GW, et al. 2003. Risk of suicide and related adverse outcomes after exposure to a suicide prevention programme in the US Air Force: Cohort study. *British Medical Journal* 327: 1-5.

Kurella M, Kimmel P, Young B, Chertow G. 2005. Suicide in the United States end-stage renal disease program. *Journal of*

American Society of Nephrology 16: 774-781.

Lawson Te Aho K. 1998. *A Review of Evidence: A background document to support Kia Piki te Ora o te Taitamariki: New Zealand Youth Suicide Prevention Strategy*. Wellington: Te Puni Ko kiri.

Le Brun C, Robinson E, Warren H, et al. 2004. *Non-heterosexual Youth - A Profile of their Health and Wellbeing*:

Data from Youth 2000. Auckland: The University of Auckland.

Le Quesne K. 1995. Report of the Suicide Prevention Review Group. Corrections Operations Group, Review of Suicide Prevention in Prisons 1995. Wellington: Department of Justice.

Lewinsohn PM, Rohde P, Seeley JR. 1994. Psychosocial risk factors for future adolescent suicide attempts. *Journal of Consulting & Clinical Psychology* 62(2): 297-305.

Lewis G, Sloggett A. 1998. Suicide, deprivation, and unemployment: Record linkage study. *British Medical Journal* 317: 1283-1286.

Linehan M, Comtois K, Murray A. 2006. Two-year randomized controlled trial and follow-up of dialectical behavior therapy vs therapy by experts for suicidal behaviors and borderline personality disorder. *Archives of General Psychiatry* 63: 757-66.

Linehan MM, Rizvi, SL, Welch SS et al. 2000. Psychiatric aspects of suicidal behaviour: Personality disorders. In Hawton K, van Heeringen K (eds). *The International Handbook of Suicide and Attempted Suicide*. New York: John Wiley & Sons Ltd.

Linsley KR, Johnson N, Martin J. 2007. Police contact within 3 months of suicide and associated health service contact. *British Journal of Psychiatry* 190: 170-1.

Liu K, Beautrais A, Caine E, et al. 2007. Charcoal burning suicides in Hong Kong and urban Taiwan - an illustration of the impact of a novel method of suicide on overall regional rates. *Journal of Epidemiology and Community Health* 61(3): 248-253.

Lonnqvist JK. 2000. Psychiatric aspects of suicidal behaviour: Depression. In K Hawton and K van Heeringen (eds). *The International Handbook of Suicide and Attempted Suicide*. New York: John Wiley & Sons.

Lubell KM and Vetter JB. 2006. Suicide and Youth Violence Prevention: The Promise of an Integrated Approach. *Aggression and Violent Behavior* 11: 167-175.

Ludwig J, Marcotte DE. 2005. Anti-depressants, suicide, and drug regulation. *Journal of Policy Analysis and Management* 24: 249-72.

Luoma JB, Martin CE, Pearson JL. 2002. Contact with mental health and primary care providers before suicide: A review of the evidence. *American Journal of Psychiatry* 159: 909-16.

MaGPIe Research Group. 2003. The nature and prevalence of psychological problems in New Zealand primary healthcare:

A report on Mental Health and General Practice Investigation (MaGPIe). *New Zealand Medical Journal* 116: U379.

Makinen IH. 2006. Suicide mortality of Eastern European regions before and after the Communist period. *Social Science and Medicine* 63: 307-19.

Mann JJ, Apter A, Bertolote J, et al. 2005. Suicide prevention strategies. A systematic review. *Journal of the American Medical Association* 294: 2064-74.

Maori Suicide Prevention Review Group. 1996. *Reducing Suicide by Maori Prison Inmates*. Wellington: Department of Corrections and Te Puni Kokiri.

Maskill C, Hodges I, McClellan V, et al. 2005. *Explaining Patterns of Suicide: A selective review of studies examining social, economic, cultural and other population-level influences*. Wellington: Ministry of Health.

Mason K, Johnston J, Crowe J. 1996. The report of an inquiry under section 47 of the Health and Disability Services Act 1993 in respect of certain mental health services. Report of the Ministerial Inquiry to the Minister of Health. Wellington: Ministerial Inquiry to Minister of Health.

Mathias K. 2002. Youth-specific primary health care - access, utilisation and health outcomes. *New Zealand Health Technology Assessment Report* 5 (1). Christchurch: Christchurch School of Medicine and Health Sciences.

McClure GMG. 2000. Changes in suicide in England and Wales, 1960-1997. *British Journal of Psychiatry* 176: 64-7.

McDaniel J, Purcell D, D'Augelli A. 2001. The relationship between sexual orientation and risk for suicide: Research findings and future directions for research and prevention. *Suicide and Life-Threatening Behavior* 31 (Suppl): 84-105.

McIntosh J. 1993. Control group studies of suicide survivors: A review and critique. *Suicide & Life Threatening Behavior* 23: 146-161.